

幸～中原 渋川雨水貯留管が公開

東急東横線元住吉駅（川崎市中原区）近く、地下50分に敷かれている直径10分、長さ約1.7キロの巨大な「管」、**「渋川雨水貯留管」**の視察ツアーがこのほど行われた。汚水と大量の雨水を一時的にためておく「池」の役割を果たし、地下深くで市民生活を浸水被害から守っている。（佐藤 将人）

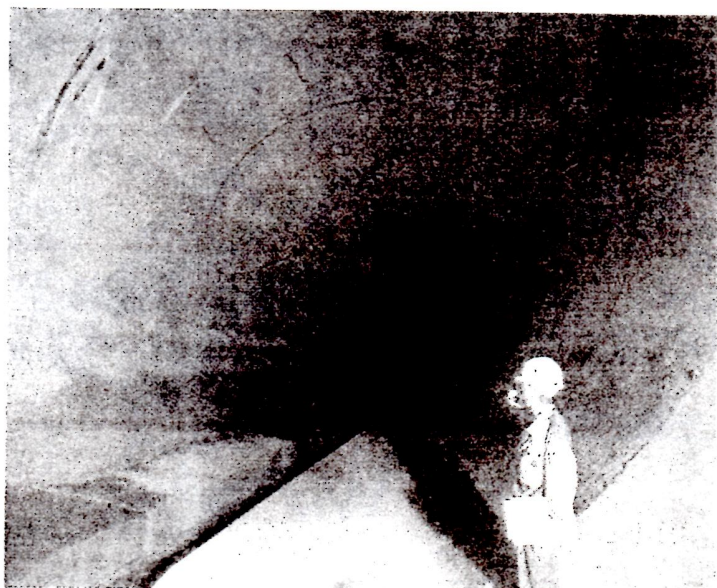
生活見守る 足元知って

元住吉駅近くを流れる渋川地域はかつて、急激な都市化により雨水の流出を抑制する土地が減少し、浸水被害が多発。「都市型水害」への対策として雨水貯留管の設置が計画された。

2004年に運用が開始された同貯留管は最大で14万4千立方分、一般的な25分パイプ約400杯分の貯水が可能。ためた水は晴天時に処理センター（幸区）に送水されて下水処理が行われ、鶴見川へと戻される。川崎市内には同様の施設が8カ所あるが、渋川が最大の貯水能力を持つ。

海底トンネルなどを掘削するシールド工法によって造られた、地下50分の強固な地盤にある長さ2キロ弱に及ぶ管は、巨大な要塞のよう。管内に明かりはなく、暗闇が不気

一般見学受け付けも



味だ。施設の担当者は「点検などに奥まで行くことがあるが、とても一人では行けない」と話した。視察は市臨海部にある入江

崎水処理センターでも行われた。地形的に閉鎖型の湾となつている東京湾への排水のため、赤潮などの原因となる汚水中の窒素やリンなどをバクテリアによって除去する高度処理施設の特徴などが説明された。

市上下水道局は「下水処理が当たり前の今、自分がトイレで流したものがどこに行くかを知らない子どももいる。少しずつでも理解してもらおう機会をつくりたい」と語った。西施設とも一般の見学の相談を受け付ける。問い合わせは、水道局サービス推進課 ☎044(200)3149。

地下50分地点に敷設されている貯留管。これが1.7キロ先まで続いている
＝渋川雨水貯留管

「渋川ポンプ場」見学について

場所：川崎市幸区矢上4-1

電話：044-580-6006

見学可能日時：平日 10時～12時頃 14～16時頃

（雨天時は地下施設の見学はできない）

人数：1グループ最大20名

時間：60分程度